



ななかまど Vol.32



目次

■大野公男先生に叙勲	2
■南京大学入学式	3
■中国・台湾から訪問団来学	4
■時計塔贈呈式	5
■学生表彰	6
■公開講座	7
■ふるさと江別塾	8
■卒業生のご家族からの便り	9
■授業評価 結果	10~12
■同窓生のページ	13
■アメリカ研修旅行	14~15
■第5回中国語研修	16~17
■図書館からのお知らせ	17
■ゼミ紹介	18
■クラブ紹介	19
■蒼天祭特集	20~23
■通信教育部がキリム改正	24~27
■主要行事・編集後記	28

写真：学園創立者理事長松尾三郎先生銅像。
本年生誕90年の佳節を刻む。





叙勲の栄に浴して

大野 公 男

平成16年秋の叙勲に際して、「瑞宝中綬章」という勲章が授けられるという内示がありました。これは北海道大学において45年、北海道情報大学において10年勤めさせていただいた御陰だと存じます。両大学の教職員および学生諸君に厚く御礼申し上げます。

北海道情報大学には平成4年4月から勤めさせていただきましたが、この大学は放送大学に先駆けて、北は札幌から南は鹿児島迄、日本全体を衛星でつないだ通信教育で著名であります。これはひとえに故松尾三郎前理事長の卓見と実行力に因るものと思われまふ。初代の通信教育部長として、今田前事務局長と共に、新しい教育方法の実践に關与しえたことは、忘れられない思い出であります。

北海道情報大学が、ますます発展されますことを信じ、かつ祈りつつ、私のご挨拶とさせていただきます。

大野公男先生に叙勲

～瑞宝中綬章～

この度、平成16年秋の叙勲において、前学長の大野公男先生が、瑞宝中綬章を受章されました。

◆◆◆◆◆◆◆◆ 功 績 等 ◆◆◆◆◆◆◆◆

大野先生は、大正15年6月4日のお生まれで、昭和26年東京大学理学部ご卒業後、引き続き同大学大学院に進学、翌年同大学理学部助手として奉職後、昭和39年に北海道大学理学部講師、同年10月北海道大学教授に昇任され、平成2年3月31日に停年により退職するまでの26年間、研究教育に従事されました。その間、昭和46年10月から翌年4月まで北海道大学学生部長、昭和51年から3期にわたり北海道大学大型計算機センター長、また昭和60年からは北海道大学附属図書館長に就任され、北海道大学退職後は、直ちに学術情報センター副所長に就任、平成4年3月31日に同職を退職するまで、国立大学等における要職を歴任されました。

本学における先生のご功績についてはご案内のように、先生は、平成4年4月本学の教授に就任し、平成6年4月から平成10年3月まで初代の通信教育部長として、本学が提携する全国16の専門学校に教育センターを置くことにより可能となった専門学校と大学教育の併修制度を確立し、またその教育手段として我が国初の通信衛星システム利用による「メディア授業」の導入をはじめ、新しいかたちでの通信教育をスタートさせるなど、創設時の通信教育部の進展に寄与されました。

さらに、平成11年4月から平成14年3月まで学長として、平成13年4月に情報通信に關わる各分野の要望にこたえて、多様なIT技術者を育成する情報メディア学部を設置及び通信教育部を含む全学部の教職課程（高等学校教諭1種・情報）の開設に尽力されるなど、本学が情報系の総合大学へと進展するための礎を築かれました。

この様に先生のこれら多大な公務などの功勞に対し、瑞宝中綬章が授与されたものであります。

(総務課)

南京大学 IT・日本語留学クラス入学式

事務局長 中居 聡士

2004年9月19日(日)南京大学逸夫館において南京大学IT・日本語留学クラスの入学式が新生20名、保護者の方々30数名を迎えて、厳粛のうちにも和やかに挙行されました。この入学式は本年5月に学校法人電子開発学園 松尾 泰 理事長と南京大学 陳 駿 副学長との間で調印された「日本国電子開発学園と中国南京大学との国際交流協定書」及び北海道情報大学 井野 智 情報メディア学部長と南京大学 王 守仁 外国語学院長並びに陳 道蓄 計算機科学・技術学部長との間で調印された「日本国北海道情報大学情報メディア学部と中国南京大学外国語学院並びに計算機科学・技術学部との留学共同プロジェクト覚書」に基づくものであります。

本学と南京大学との国際交流の歴史は古く、謝立 前副学長、関 鉄軍 副学長の来学をはじめ、数多くの教職員の人材交流を行ってきました。また、本学の科目として毎年夏に実施している約4週間の「海外事情」(中国語短期研修)は今年で6回を数えるまでになっています。今回の入学式を期に、本学と南京大学との国際交流はさらに進展し、その絆は固く結ばれたものになりました。

式典は午後2時から開始されました。南京大学からは外国語学院 王 玉珏 主任、計算機科学・技術学部 陳 道蓄 学部長そして来賓として南京大学大学院教授で南京富士通南大軟件技術有限公司の潘 金貴 副総経理(副社長)が出席されました。また、本学からは第1回の記念すべき入学式であることから、久野 光朗 学長、田中 英夫 助教授そして私の3名が出席しました。式典は汪平 外国語学院副院長の司会ではじまり、王主任の訓辞、久野学長の祝辞、陳学部長の訓辞そして

潘副総経理の祝辞と続き、その後は松尾理事長、井野学部長のお祝いのメッセージが披露



され、教員代表として汪麗影先生がお祝いを述べられました。続いて新生を代表して方成さんが「これからは南京大学の学生として誇りと自覚を持って南京大学での2年間の勉学に励み、無事に北海道情報大学の3年次に編入学(留学)できるよう、精一杯頑張ること」を強く誓いました。新生は全員緊張した面持ちで決意を新たにしました。

新生20名のうち、男子学生は13名、女子学生は7名であり、南京市内に限らず広く江蘇省全域から、さらには安徽省からの出身者もいます。経済的にも恵まれ、頭脳明晰な、将来を期待される学生であり、これから南京大学の2年間で日本語並びにITについて基礎から専門分野の入り口まで、びっちり教育を受けます。今日、中国の市場開放の潮流は激しく、経済発展には目を見張るものがあります。特にIT関係の需要は非常に高く、卒業後の就職先としてIT関連企業はトップクラスの人気を占めています。

北海道情報大学は2007年4月に彼らを迎え入れることとなります。彼らの希望と夢を叶えるためにも、本学は教育のみならず生活面においても教職員一丸となって支援していくことが必要となります。彼らが日本で無事2年間の勉学を終え、本学の卒業証書と学位を手にし、中国の輝かしき発展に貢献するだけでなく、日本と中国の友好の掛け橋として大きく活躍することを心より期待するものであります。

最後に、入学式が成功裏に無事終了しましたことに、今までこの留学共同プロジェクトの実現に努力されました南京大学の関係者、そして本学の教職員の方々に心より謝意を表します。

入学予定者と両大学関係者

南京大学正門



中国航天科技集团公司視察団来学

平成16年9月15日(水)、中国航天科技集团公司の視察団が来学しました。中国航天科技集团公司は中国ロケット産業を担う組織のなかでも中心的な存在で、宇宙船とロケットの開発を担当しています。昨年の「神舟」による有人宇宙飛行の成功は記憶に新しいところです。今回の一行は、IT関連機関を視察するため来日し、東京のITメーカや北海道大学を視察の後、関連グループ企業に



宇宙技術開発(株)を擁する本学を訪れました。

当日は、最初に久野学長への表敬訪問が行



われ、久野学長の挨拶の後、中国航天科技集团公司の楊副総エンジニアの挨拶、中国語版本学紹介ビデオによる本学概要説明が行われました。ビデオ終了後は本学キャンパスを見ていただきました。一行は本学の衛星教室やモーションキャプチャ装置に大きな関心を寄せられたようです。次に北海道情報技術研究所を見学され、バーチャルスタジオを体験するなどしました。

短い時間ではありましたが、宇宙開発という共通の土壌を持つ組織が互いに親交を深めることができました。今後の交流の進展に期待が持たれます。
(総務課)

台湾南台科技大学視察団来学

平成16年10月7日(木)、台湾の南台科技大学張学長一行が来学しました。南台科技大学は台湾台南市の近く永康(ユンカン)市にある総合大学です。4学部20の系(学科)を擁し、学生数は16,000名を数えます。北海道大学とも交流があり、日本のみならずカナダ、イギリスを始め世界中の多くの



国々の大学と盛んに国際交流を行っている大変積極的な大学です。日本の高等教育機関視察の一環として、来学されました。



当日は、久野学長の挨拶、南台科技大学張学長の挨拶の後、中国語版本学紹介ビデオによる本学概要説明が行われました。その後、北海道情報技術研究所を見学していただき、本学に戻ってキャンパス見学、昼食となりました。昼食後も、互いの国の高等教育に関する現状や、情報IT関連の意見交換に話題はつきず、名残惜しい中での終了となりました。
(総務課)

同窓会寄贈時計塔贈呈式行われる

平成16年9月24日(金)午前11時30分から、本学同窓会からの時計塔贈呈式が行われました。

式には、本学および同窓会の関係者が出席し、最初に同窓会を代表して、この時計塔寄贈プロジェクトの中心となり尽力された高橋副会長から、時計塔寄贈に至った経緯を含めた挨拶が行われ、続いて、久野学長からお礼の言葉が述べられました。その後、久野学長、



中居事務局長、木村同窓会長、在学生代表中村達也君の4名によりテープにハサミが入れると、それまで白地の幕で覆われていた斬新なデザインの時計塔がお披露目され、出席者を含め、会場に集まっていた在学生からも歓声上がるなど、盛況のなか贈呈式は終了しました。

時計塔のデザインは、札幌市在住の新進の造形作家、瀧澤明侑美氏で、「風の街 江別」と「情報というエネルギー」が交差している現在の情報社会をイメージしたもので、『Spiral energy』と命名され、ワコー北成メタル(株)の製作となっております。

なお、時計塔は、松尾記念館、本部棟、校舎棟1号館に囲まれた中庭のほぼ中央に位置し、本学の新たなシンボルとなりました。時計塔には三つの時計があるため、中庭に面している校舎であればどこからでも確認することができます。

(総務課)



北海道情報大学 同窓会寄贈
2004年9月吉日

北海道情報大学 同窓会寄贈
2004年9月吉日

学生の学内表彰について

学生部長 坂上 修二

PCカンファレンス北海道2004 ～CIEC2004 研究大会～

PCカンファレンスは
教育へのコンピュータ利用を考える大会です

本年度のメインテーマ

高校大学間の情報教育の連携

2004年10月30日(土)
講演会：「誰にでもできる、学校の情報化における危機管理の方法」
シンポジウム 「情報教育における高大連携の意義と可能性」
イブニングトーク 「セキュリティ」、「高大連携」などを予定
11フェア(メーカー発表)

2004年10月21日(日)
研究発表 11フェア(メーカー出展)
研究発表論文募集 募集申込締切 9月 4日(土)
論文締切 10月 9日(土)

会場：北海道情報大学 江別市西野町 59-2
主催：PCカンファレンス北海道2004実行委員会
共催：CIEC(コンピュータ利用教育協議会)
全国大学生協議会北海道地域センター
後援：北海道教育委員会、江別市教育委員会、札幌市教育委員会
詳細は <http://www.hokkaido.seikyoin.jp/pcch2004/> を参照下さい

湯藤君、少し遅くなりましたが、PCカンファレンス北海道2004のポスター最優秀賞、おめでとうございます。この大会は10月末に本学で開催されたもので、そのポスターに湯藤君デザインに

湯藤君は金先生のゼミナールで主にCG(コンピュータ・グラフィックス)を学んでいます。最初はCGに関する知識はもちろん、パソコンの基本知識もなかったのですが、日夜努力して自分独自のCGの世界を切り開きました。今では金先生の予想以上のレベルに達しており、今後の作品が楽しみとのことです。



本学学生がデザインした作品が全国規模のポスターに採用されたことは本人にとって大変な名誉であるばかりでなく、本学にとっても大変喜ばしく、かつ名誉なことです。また、多くの学生にとっても湯藤君の活躍は勇気と自信を与えてくれるものと思います。

よる作品が最優秀作品として採用されたものです。学内のあちこちにその優雅なポスターが掲示されておりましたのでご覧になった方も多と思います(写真)。ポスターの下部に、「北海道情報大学情報メディア学部湯藤巧さん作成」と主催者が記入してくれてあり、全国に北海道情報大学の名前を知らしめてくれました。

湯藤君にとってもPCカンファレンスという大会のポスターに自分の作品が採用されたことは記念すべきこととして深く思い出に残ることでしよう。

ところで、PCカンファレンス北海道とは教育へのコンピュータの利用を研究する大会のことです。今年で4回目を数え、10月30日(土)―31日(日)に本学で開催されました。今年は特に情報教育における高校・大学の連携を主たるテーマとして、講演会、シンポジウム、研究発表、メーカー出展などがあり、全国から100人以上の参加がありました。

このように湯藤君の本学に対する貢献が非常に大きいことから、湯藤君を北海道情報大学学生表彰者として表彰する運びとなり、10月12日に学長より表彰状と記念品が贈呈されました。なお、湯藤君は今年の10月に学内表彰規程が制定されてから2人目の表彰者となります。



公開講座「デジタル作品作製講座」開始

公開講座準備委員会委員 吉村 美穂
(法人本部企画調査室係長)

本学の長年の懸案であった市民向けの公開講座が本年度初めて実施されました。今年行われたのは、「デジタル作品作製講座」。ビデオ映像を自分で撮影し、それをストーリーのある数分間の作品に編集して仕上げようというもので、受講者には小学生から60代までの10名が集まりました。



公開講座の風景

まず、テーマについてですが、江別の名所や特産の紹介など、広く江別を紹介するものにしたいと考えました。そこで、今年は①「大学」、②「自然」、③「れんが」の3テーマを設定しました。

①の「大学」については、江別市は12万人の人口規模にもかかわらず、4つの4年制大学に2つの短期大学を擁し、一大文教エリアを形成しています。「大学」という視点から自分の暮らしている地域を見直そうという意図です。

②の「自然」では野幌原生林を始め、江別市に点在する大小の公園等、対象には事欠きません。180万都市札幌から車で1時間程度の場所にこれほど大きな原生林が残っているというのは、国内でも例がないそうです。

③の「れんが」については、江別は国内でも有数のれんがの産地として知られています。また、レンガの建築物の保存が行われ、さらに「やきもの市」や「セラミックアートセンター」等、江別

ではレンガの保存のみならず、レンガを広く「焼き物」としてとらえ、その良さを再発見する動きが盛んです。今回は受講者にこれらのテーマの中から、いずれかひとつを選んでもらうこととしました。

講座は、第1回を9月25日(土)に実施し、以降毎週土曜日に行っています。スケジュールは、第1～2回はビデオ機器の操作法の修得やシナリオの作成等、第3～5回に素材の撮影、第6～9回に編集作業と不足する素材の追加撮影、最後の第10回に発表会を行います。10月末現在は、それぞれの受講者のペースで素材の撮影が行われているところです。これから11月に向けて、素材取りを終え、本学マシン室での編集作業にとりかかる予定です。

講座の実施には、金義鎮先生、上原士郎先生をはじめ、いくつかのゼミの学生が協力しています。また、今回の講座は、道民カレッジの提携講座としても登録され、市民に開かれた大学の一端を担うことができました。将来は、江別デジタル・アーカイブを構築したいという大きな目標も掲げていますが、まずは次年度以降も継続して実施し、本学の行う公開講座として広く市民に認知されるものに育てていきたいと思っています。

真剣に編集作業を行う受講者



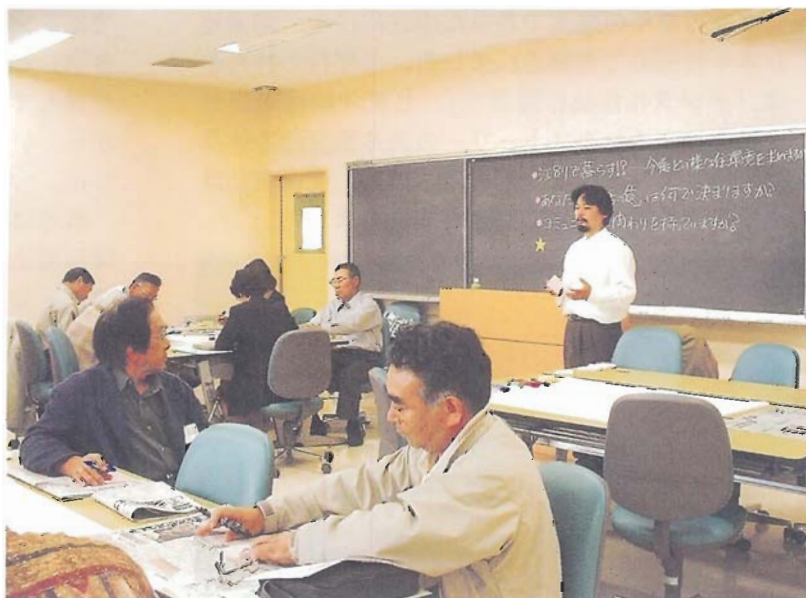
「ふるさと江別塾」について

教務課長 加藤 邦雄

江別市教育委員会の呼びかけにより平成12年度からスタートした「ふるさと江別塾」は、江別市内の4大学が連携し、市民のさまざまな学習要求に応えるとともに、市民が地域創造のための問題意識を持ち、まちづくりに主体的に参画していくための学習の場とすることを目的としている。

毎年秋に開催されるこの江別塾は、開講を土曜日とし、各大学が1回ずつ自大学を会場に90分2コマの講演などを行うことにしている。

これまでに本学で開催した「ふるさと江別塾」の演題および講師は次のとおりである。



平成16年9月25日開催のワークショップ会場

◎平成12年11月25日(土)

演題1. 日本の電気通信の歴史

ー日本人の努力を再認識するー

坂上 修二 教授

演題2. IT社会の光と陰

ー情報の本質とIT革命のありかたを考
えるー

中岡快二郎 教授

◎平成13年10月27日(土)

演題1. リラクゼーションの活用

野澤 譲治 助教授

演題2. 風景にわけこむ美しいレンガ造りの構造物

ー江別市の景観を考えるー

井野 智 教授

◎平成14年10月12日(土)

演題1. 高齢社会のライフスタイルを考える

ーライフデザインとしての環境づくりー

加藤喜久子 教授

演題2. 環境問題と企業

ーリサイクル社会を目指す企業活動ー

浜淵 久志 教授

◎平成15年9月20日(土)

演題1. 障がい児(者)への配慮とコンピュータ利用

石井詩都夫 教授

演題2. 星と銀河

外山 清高 教授

◎平成16年9月25日(土)

演題 少子高齢社会の住環境ーあなたはどのよ
うに生活していきたいですかー

《前半90分 講義》+《後半90分 ワークショップ》

隼田 尚彦 助教授

今年9月25日開催の隼田尚彦助教授の演題については、これまでとは趣を変え、前半90分で講義をし、後半90分をワークショップにあてるといった形で進められた。

ワークショップでは参加した受講生を6グループに分け、これからの暮らしはどうあるべきか、住環境はどうあるべきかなどについて議論してもらい、最後に、その内容をグループごとに発表し閉講した。

卒業生のご家族からの便り

先月中旬、本学卒業生のご家族から学長宛にお便りが寄せられました。
せつかくのお便りですので、執筆者了承のもと、掲載させていただきました。

謹啓

時下錦秋の中、次第に寒気が加わります折ながら、学長先生、又、理事長、理事、諸先生方にはますます御清祥の中を貴大学御発展のため日々お過しの御様子と拝し、心からおよろこび申し上げます。

降りまして、私は貴大学を今春卒業させていただきました、情報学科の佐々木英彦の母方の祖母でございます。個人的には全く面識なき私が、お手紙を差し上げます失礼を、どうぞ、お許し下さいませ。

御校にて勉学がいかに楽しく充実させて頂けたかは、此の四年間の孫との交流、又、折にふれては再三学校に伺う度に痛感致しておりました。卒業アルバムにて御尊顔を拝し、贈る言葉を拝読致しまして、一そう有難く、失礼をも省みず、かかる粗文を差し上げることと相成りました。

孫は昨年早々に、(株)日立OPSSに入社がきまりまして、今年四月から品川の同社に勤務し、さいたま市浦和の会社の寮から無事通勤、土・日はお休みとて、日々安定し、仕事がとても楽しいと申しておりましたので、先月末、娘と共にその様子を見て参りました。昨今、世情の不安定の中を、かかる好調なすべり出しが出来得ましたのも、貴校諸先生方の御力の賜と深く深く感謝申し上げますと共に、母校の名をけがさぬ様にはげめと東京で説教して帰ってまいりました。誠に有難うございました。

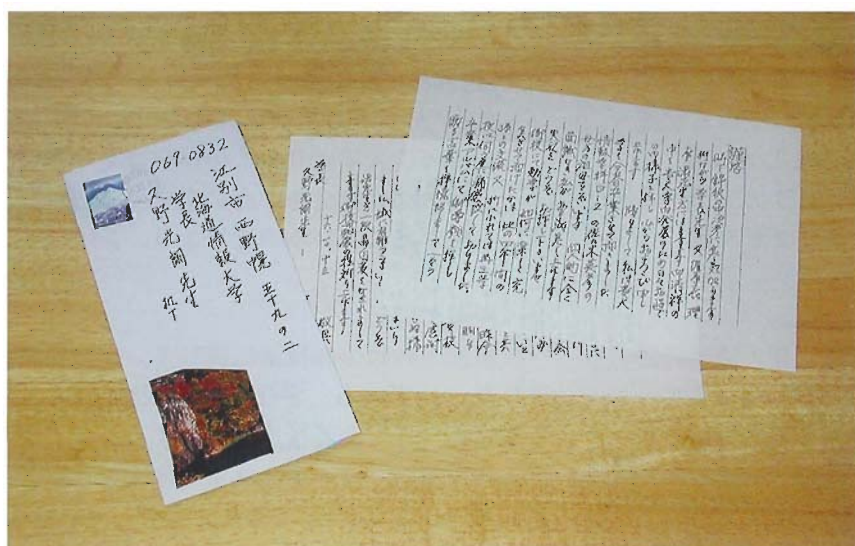
どうぞ、諸先生方、一段の御自愛をなされまして、ますます御校御発展のほど、祈り上げます。

敬具

16.10.13

学長 久野光朗先生

齊藤 光子 拝



学生による授業評価の結果について

経営情報学部教務委員長 林 雄二

1. 授業アンケートについて

授業に対する学生の意見評価を聞き、授業が学生にどう受け取られ学生の成長や啓発に貢献しているかを把握し、その結果を今後の授業改善に資するための基礎資料とするため、7月(中旬～末)に全学一斉授業アンケート調査(ゼミナール、体育実技、オムニバス形式授業は除外)を行いました。その結果全221科目(100%の科目)、回収枚数10067枚という、膨大かつ貴重な情報が得られました。

★今回のアンケート調査は、一般の講義科目(193科目)と演習科目(28科目)とで質問項目を区別しました。

★学生に対する授業評価質問と同じ質問に対し、担当教員の自己評価アンケートも行い、担当教員と学生の意識の相違も見出すことを試みました。

無記名でありながら全体に学生の記述は真摯なものであり、当初は無責任な誹謗的記述の多いことが予想されましたが、自由記述欄でもほとんどが節度のある記述であり、中には建設的な提案もあり、本学学生の潜在的な学びの意識は低いことを知ることもなりました。

個々の教員が今後の努力で改善すべきことは多々顕在化してきています。同時に、学生諸君の努力を促す働きかけがもっと可能であり、学生も、努力のきっかけが与えられるように期待していることを印象付ける結果となりました。

本稿では、前期分のアンケート結果に対し、総合的な意味付けを試みています。なお、質問や選択肢が同一なものだけに限り、判明している範囲で、他大学との比較を加えておきました(ただし他大学の調査が、本学と全く同じ条件の下で行われたか否かについては確認しておりません)。

2. アンケート結果の分析

質問は、Ⅰ：授業に対する姿勢 Ⅱ：授業の評価Ⅲ：総合評価 の3つの部分から成っています。ここでは、科目数の大部分を占める講義科目を対象にして解説をします。

Ⅰ 授業に対する学生自身の姿勢

1) 受講動機

- ・必修科目だから、資格取得に必要、興味を持った、将来に役立つ：計56.7%
 - ・時間割の関係、単位が取りやすい、あまり深く考えずに：計38.1%
- <十分な関心を持たずに科目を選択しているケースが4割近い。受講動機が明確である学生の方が肯定的な授業評価をしている傾向があり、科目の選択に際し、大学側としてもっと十分なガイドをすべきかも知れません。>

2) 意欲的に取り組みましたか

- ・(とても+ある程度)そう思う：73.8%
- <授業を担当しているものの実感とほぼ一致しているのではないのでしょうか。ただし教員の意欲については(後述)肯定者56.3%と、あまり高く評価をしてくれていませんでした。>

3) 自主学习

- ・ほとんどしたことがない：60.8%(演習科目では48.4%)
- <他大学の平均的な結果よりも低いとの情報がある。宿題やレポートを課することが多くないという結果とも考えられます。図書館の利用が多くないという状況もあり、学生に達成可能範囲での負荷を課すことがもっと必要かも知れません。>

4) 講義中に私語やメールやりとり

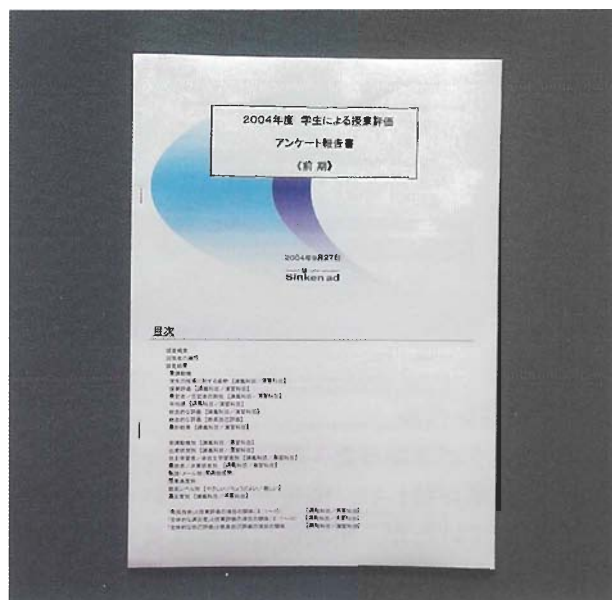
- ・(ほとんど+あまり)したことがない：69.0%
- <近郊G大学よりもこの比率はやや高い。今年教務委員会を中心に学生に呼びかけた効果が表れているのでしょうか。>

Ⅱ 授業の評価

授業担当教員の教授法に関して、15の質問をしました。いずれも、学生には5段階(5：よくあてはまる 4：ある程度あてはまる 3：どちらともいえない 2：あまりあてはまらない 1：全くあてはまらない)で答えてもらっています。

ここでは、肯定的評価(5と4)の比率をあげておきます。

- 1) 講義概要に沿っていた : 56.3%
- 2) 興味関心をもつことができた : 47.6%
- 3) 内容はわかりやすかった : 43.2%
- 4) ものの見方や考え方で影響を受けた : 29.5%
- 5) 担当教員の意欲熱意が感じられた : 56.3%
 <質問5について、5段階評価値の平均は3.6になります。首都圏K学院ではこの値が3.7、関東S大学では4.0などで、他大学よりも低いのは残念な結果です。>
- 6) 担当教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった : 49.5%
 <質問6に関しては、近郊G大学での68.5%より低いという結果でした。自由記述欄に、聞き取りにくいという書込みが散見されました。ほとんど例外なく、そのような科目に対しての学生側の総合評価は低くなっています。まずは、教員として、明瞭に話すことが最低限度の条件というべきでしょうか。>
- 7) 担当教員の板書やスライドOHPは見やすかった : 41.7%
 <OHPなどの画面の切り替えが早いという記述が多く見られました。>
- 8) 学習意欲や興味を促す工夫がされていた : 33.3%
- 9) テキストや教具教材が有効に使われていた : 41.8%
 <配布プリントが役だったという声が多い。テキストが指定されいながら授業で使われないという声は少なくありませんでした。教科書の利用方法に配慮が欠けている科目があるようです。>
- 10) 私語や途中入退室に対し注意指導がなされていた : 45.9%
 <問題にするほどの私語がなければ注意指導の必要もないので、私語被害があったか、という質問もすべきでした。>
- 11) 学生からの質問に親切に対応していた :



49.9%

- 12) 宿題や課題勉強方法が適切に指示されていた : 37.4%
 <宿題やレポートが期待していたほど多くはないという結果でしょうか。>
- 13) 最新の情報や研究成果等に触れることができた : 27.3%
- 14) この授業が目的としていた知識や技能を獲得できた : 34.9%
- 15) この授業で学んだことは将来に役立つと思う : 41.6%

★授業評価で比較的高いものは、「講義概要に沿っていた」(56.3%)「意欲熱意が感じられた」(56.3%)でした。しかし、教員の自己評価との差が最も大きいのは、「意欲熱意」と「意欲を促す工夫」の2項目でした。教員は熱意をもっと見える形で示す必要があるということでしょう。

★授業評価で比較的低いものは、「考え方に影響を受けた」(29.5%)「最新の研究成果に触れた」(27.3%)でした。教員の研究に関して話すことに遠慮はいらぬということでしょう。

★授業評価に関しては、演習系が講義系よりも全体に高いという結果が得られています。

★授業評価に関して、学科による差異として、特筆すべき結果はありませんでした。

III 総合的評価

授業全体を通しての印象を4つの質問を通して答えてもらいました。答えの中で大きな比率を占めたものをあげておきます。

- 1) 授業進度
 ちょうどよかった : 68.8%



2) 難易レベル

ちょうどよかった：50.8%

<授業が難しい、進度が速いという声を予想していたが、平均的な結果は妥当なものでした。>

3) 教授技術

(非常に+ある程度)優れている：43.7%

4) 全体満足度

(とても+ある程度)満足：45.8%

<「全体満足度」は、五段階点数化では平均値3.3(演習科目では3.7)でした。関西D大学の調査では3.7、首都圏K学院の調査では3.5という結果が公表されています。この値が他の大学よりやや低いことを真摯に受け止めるべきでしょう。>

★学年が上になるほど総合的評価は高くなるという結果が出ました。高学年ほど選択科目が多くなり、クラス当たり受講人数も減少することが一因でしょう。一方、一年生の反応として、「興味関心が持てた」、「授業進度」が、とくに低い評価でした。一年生では、高校での授業形式との差にとまどいがあるでしょう。徐々に慣れてもらうように配慮すること、また、問題意識を持ってもらうように、働きかけることが必要かも知れません。

3. 全体を通して

特に目立った傾向、あるいは、質問項目間の傾向をあげておきます。

★受講動機について見ると、「興味を持ったから」を選んだ学生は「全体満足度」が高く「資格取得に必要」、「あまり深く考えずに」を選んだ学生は「全体満足度」が低い。大学として学生に科目の選択に際して 今まで以上にガイドする必要がある。

★「出席状況」がよい学生は「全体満足度」が高い。「私語メール」をしない学生は「全体満足度」が高い。これは、まじめに取り組むことと、講義が理解できることの両方向の因果関係があるということでしょう。

★「全体満足度」との回帰分析では、「わかりやすかった」「興味関心を持てた」「意欲を促す工夫があった」「授業目的を獲得できた」が重みとして大きい。総合的に満足が得られない授業の大部分は、授業内容が理解できないという不満がその原因になっているという結果です。

★受講生が少人数の科目と多人数の科目では、総合的に、少人数授業の評価の方が高いという結果が表れています。授業を受ける学生の意識も、自分が100分の1の存在であると感じるのと、30分の1であると感じるのとでは異なってくることでしょう。

★ネイティブ英語教員(常勤3人)の授業に対する学生の評価が非常に高いという結果が得られました。楽しく学ぶという雰囲気の中で授業が進められていることでしょう。

4. 最後に

今回は個々の質問項目に対する分析が中心でしたが、項目間の関連やカテゴリ別(例えば、常勤と非常勤、必修科目と選択科目、講義時間常別など)、あるいはクロス集計(複数カテゴリを組合せた集計)など、さらなる分析が必要です。これらは、後期に行われる2回目の授業アンケートの分析において生かすよう計画をしています。

特に全体満足度が低い常勤講師の科目については、学長と科目担当教員との話し合いの場が持たれ、原因や今後の対応について相談されました。今回のアンケート結果を基に、個々の教員は教育の効果を高めるために、問題点を改善する努力を重ねます。しかし、授業は教員と学生、両者の意気込みが相乗効果となってよりよいものになっていきます。学生諸君も、授業に積極的に取り組むという、一層の意欲を持って大学生活を送ってくれることを期待します。

経営情報学部経営学科 2期生 浅岡ゼミ

(株)ネオスト・フレンド 経営
南 涉(みなみ わたる)



大学を卒業してから約10年が経ちました。10年と考えると一昔前の感じが致しますが、私にとっては波瀾万丈の10年だったので、あつというまのでき事のような気がします。私は、25歳で会社を設立しましたが、現在は違う会社を設立しコンピューター会社を経営しています。従業員は約15名です。

15名というと、少ないと感じる方が多くありませんでしょうか？実際は大変です。経営するには、やはりお金です。少々汚いお話になりますが、現状を知って欲しい為にも聞いて下さい。

営業当時の知合いの方と、会社を設立したのですが、まだ二人という事もあり、何事にも積極的に取り組んで仕事をしていました。社員も増えていく中で、仕事がない時期もでてきます。やはりリストラするしかないのです。社員が知り合いでも、リストラをしなくてはなりません。将来の自分には、有り得ないと考えていませんか？ 実際に私も考えた事もないし、会社を設立した時も、これだけはやらないと決めていました。しかし、現実には甘くありませんでした。他の社員を生かす為、致し方ありませんでした。

今後の社会には、リストラは付き纏ってくるのだと思います。社会に必要な人になる為には、未来に向かって自分で自分に提案をして下さい。そして、自分を磨ける人になって下さい。そうでなければ、周りの人達から信頼を得る事ができないと思います。

厳しい現実を前に、今やらなければ成らない事をそのままにしないで下さい。

最後に、実際に学生さんの周りにはない事ですので、一つアドバイスを……遊ぶ時は、自分に意味を持って遊んで下さい。

経営情報学部情報学科 4期生 前田ゼミ

川田 恵子



右が筆者

『ななかまど』に原稿を書いてくれないか？』と同窓会長の木村さんからの依頼を、あまり深く考えもせず了承したものの、いったい何を書いたらいいのか？と、悩みました。たいしたことではありませんが、最近自分が考えていることを少し書いてみようかと思えます。

卒業してすぐの頃は、自分にとっては仕事が一番でした。家と職場を往復し、職場で捌き切れなかった仕事は家に持ち帰ることもしばしばありました。家は寝るだけの場所ではなく、自分の趣味に使う時間も持っていませんでした。それがよくないことだとは思ってはいません。仕事に情熱を傾けることも大切なことだと思います。

それが、30歳になり自分の生き方を改めて見つめなおした時、少し考え方が変わったのです。仕事は仕事、職場では仕事を。自分は自分、家では自分の為に時間を使うというようにONとOFFの切り替えができるようになってきました。

ONとはとにかく仕事です。一番大事なものは仕事(当然といえば当然ですが)、仕事に集中して自分のすべき仕事をこなしています。

OFFの楽しみ方は色々だと思います。私の場合は、今一番楽しいのが月に一度のイタリア料理のお料理教室です。おいしいお料理の作り方を習い、おいしいお料理とワインを仲のよい友人たちと楽しいおしゃべりをしながら過ごす時間はとても大切です。ほかにも、色々ありますが。とにかくOFFの時は仕事の事は忘れ、楽しい時間を過ごすことにしています。

こうして、ONとOFFを切り替えることで、自分の心にも余裕が出てきたように感じています。心に余裕ができたことで、忘れていた「笑顔」を思い出すことが出来たように思います。

「笑顔」は自分の周りに幸福を呼び寄せてくれるものだと信じています。その時々自分の精一杯の「笑顔」を忘れずに、これからも生活を楽しんでいきたいと思っています。

平成16年度のアメリカの海外事情：七つの印象

経営ネットワーク学科 助教授 サイモン・ソーラ

The Beginning

平成16年8月1日(日)に札幌から14人の学生と新千歳空港を発ち、名古屋空港で新潟2人、北九州2人、鹿児島1人の学生が合流しました。

バンクーバー経由でサンフランシスコ空港へと向かう予定でしたが、飛行機のトラブルで離陸が5時間以上遅れ、バンクーバーでの乗り換えに間に合わず、急遽バンクーバーで1泊するハプニングがありました。しかしその後のスケジュールは順調に進み、UCSCの寮やサンタクルーズ近辺に各々ホームステイをし、平日の午前中は英会話の授業を受け、午後からはいろいろなアクティビティで楽しみました。そしてヨセミテ国立公園テント・キャビンやアメリカを発つ最後の夜はサンフランシスコ空港近くのホテルに泊まり、17日サンフランシスコ空港で、成田経由で帰る新潟の学生2人と別れ、残り17人(引率2名含む)で帰国(名古屋空港)の途につきました。

この2週間、学生は大変新鮮で貴重な体験をしました。私が特に印象に残っている"七つ"のことについて記したいと思います。

1. Santa Cruz

サンタクルーズでよく見かけた現地の人々は三つのタイプに分けることができそうです。ダウンタウンを歩くと必ずいるのが、60・70年代から残っているヒッピー、歩道で座っているホームレスそして若い大学生です。これは別に悪いことではなく、皆それぞれがとても満足気な顔をしているのです。こののんびりした街で歩行者は皆王様です。信号があってもなくても好きなところで好きな早さで道路を渡っている

のに、クラクションの音は全くしません。ザ・ボードウォーク(海岸の側にある遊園地)もあるので、とても幸せな人生を送っているようにみえました。ただ良くない点も。それは住宅の価格と家賃。2LDKのアパートの家賃は毎月20万円を平気で超えるそうです。普通の住宅の価格もなんと1億円です。

2. The Bus

運転手は男女半々です。一回乗ると約150円、距離は関係無し。(一日乗り放題は450円)学生がフルタイムカードを出すと無料で乗れます。バスは全てバリアフリーで車椅子優先の席もあります。マウンテンバイクを使う人が多いのでバスの前に専用のバイクキャリアがついています。別料金ではないので、もうこぎたくなくなった時に、バスに乗りバイクをキャリアにつけることが可能です。降りたいときはボタンを押すのではなく、天井からぶら下がっているコードを引っ張ります。そしてバスを降りる時、ほとんどのお客さんは必ず大きな声で運転手に「Thank you」と言います。

3. Student Activity Leaders

アクティビティのリーダーは現地の4年生2人で、1人はニックという白人の男性、もう1人はヒラリーという黒人の女性で、どちらも非常に明るくて皆にとっても良い体験をさせてくれました。アクティビティの内容は半日のボードウォークやSanJoseの一日旅行、サンタクルーズのサーファイング博物館等です。ニックはスペイン語がペラペラ、ヒラリーも負けずに日本語で頑張りました。ヒラリーは学生を呼ぶとき、必ず大きな声で「皆さん、私をけて下さい。」と言いました。彼女が言いたいことは「皆さん、私(の話)をきいて下さい。」最後の日にその間違いを教えてあげました。向こうの大学生の夏休みは約3ヶ月です。噂だとニックとヒラリーは12月に北海道に来るそうです。

4. Homestay Families

学生は1週間位寮に泊まり、その後の1週間はホームステイと2泊のキャンプをしました。ホー



ムステイ先のホストファミリーはアメリカの国際化を反映するかのよう、イギリスやカナダ、韓国やフィリピン、そしてなんと日本出身のホストファミリーもいました。年齢も幅広く、30代から70代まで様々でした。ホームステイ先が韓国出身のホストファミリーの学生はなんと毎日キムチを食べた？そうですが、本当に皆優しく、素敵な人達ばかりでした。

5. Food

食べ物！いろいろなことでビックリしました。まず青色のマクドナルドのサインを見ましたが、Lサイズは絶対頼まない方が良いです。日本のLが向こうのSと同じ位のサイズで、アメリカのLサイズのコーラは約1.3リットルです。また大学寮の近くにある食堂では飲み物が15種類以上もあり、昼食では皆バーガーとポテトフライを食べていました。コンビニやスーパーのポテトチップスのパックも大きかったし、何とんでもビールが安かった・・・シクスパック(6本)が約500/600円。また、レストランにはいろいろな料理がありました。アメリカの料理以外個人的には、オーストラリア料理そして中華、メキシコ料理、タイ料理、

スペイン料理、エジプト料理も食べました。食べ物関係のゴミ(紙屑、ラッパー、紙コップなど)を外で見かけなかったのにも驚きました。

6. Yosemite

8月14日(土)から15日(日)まではヨセミテ国立公園テント・キャビンに泊まりました。ヨセミテのワンポイント数学です。

ヨセミテ=熊+星空+流れ星+純粹自然-テレビ。
是非行ってみて下さい。

7. Shopping

どこに行っても学生はたくさんの買い物をしました！やはり素敵な思い出を忘れない為にも自分へのお土産を買いたいのでしょうか。学生はいったいどういう買い物をしたのか？一例をあげるとUCSCグッズ、ナイキのパクリもの、マージャンパイで出来ているプレスレット、山ほどのディズニーストアグッズ、チョコレート、Tシャツ、ハローキティ(!?)、サンタクルーズと書いてあるフリスビー、ビール、バブルガム、ゲーム、CD、ブランドグッズ等々。

そして次の買い物は夢再び・・・アメリカ行きの航空券ではないでしょうか。

経営ネットワーク学科 助教授 高野 俊夫

こんな感動的な光景は二度と見られないかもしれない。ヨセミテ国立公園からサンフランシスコへとわたしたちの旅はまさに最終章を迎えていた。

この2週間サポートしてもらったUCSC3年生の二人の学生—ニック(文学専攻、男子)とヒラリー(社会学専攻、女子)—との別れをもう2時間近く惜しんでいるのだ。ヒラリーの大きな体に抱擁され、肩を叩き合って、英語と日本語で言葉を交わし、全身全霊で別れを悲しんでいる。日本での再会を約束しながら涙している……。彼らの車が宵間に溶け込むまで、みんなで大きく手を振り見送った。この短い夏に描かれた青春の軌跡の絶頂と騒動の炎熱を冷ますかのように、ひんやりとした風があたりを舞っていた。

思えば、みんなは日を追うごとに親密さを増し、アメリカの流儀に慣れる一方、それぞれがカリフォルニアの澄み切った空の下でどんどん逞しくなり、個性を發揮していった。

特に、授業最終日のボトラックパーティーをか

ねた卒業式は圧巻だった。伴奏つきで「ドレミの歌」をジュリー・アンドリュース張りの美声で披露し、ダブルダッチのパフォーマンスも見事に成功させ、大喝采を博した。UCSCのスタッフとホストファミリーを前にして全く物怖じしない姿に、将来の国際交流の明るいイメージが重なった。この夜のスピーチで述べたように、「この実り多い経験は、わたしたちの生涯を通して輝き続ける」ことを実感した。

滞在期間中できるだけ自分で英語を話すようしむけたが、みんなは授業とホームステイでの困難をあっさり乗り越え、コミュニケーション能力を充分開花させ、自信をつけたようだった。

終わりに、この研修旅行を大成功に導いてくださったスーマンさんをはじめとするUCSCのスタッフとホストファミリーに感謝の意を表すとともに、本学スタッフならびにこの貴重な経験を共有した19名の学生のみなさんにも心よりお礼を述べたいと思う。

第5回中国語研修を終えて

システム情報学科 教授 玉置 重俊

2004年度本学第五回中国語研修には、情報メディア学部から5名、通信教育部から13名の応募があり、総勢18名の学生が研修に参加した。8月7日、参加者全員が関西空港で順調に集合し、予定通り中国国際航空の飛行機で、上海に出発することができた。当日は、南京大学の王先生と通訳のガイドさんが、上海の浦東飛行場までマイクロバスで出迎えに来て下さった。また本学から南京大学に編入した林泰之君も、私の補佐役を務めるために、駆けつ

けてくれた。各自の重いトランクをバスに積み込んで、上海のホテルへ向かう。ホテルでは、早速学生たちの部屋割りを行い、夕食の時間と場所を教える。この日は、中国への入国初日なので、夕食後の午後8時より、ホテルの隣の大きなレストランの個室を有料で借りて、私は第一回目のミーティングを開いた。会合では、参加学生に対して、現地の情報と今後の研修に関する詳細な注意事項を厳しく伝達した。その後は、学生たちも初対面の人が多いので、お互いに自己紹介をして、これからの研修に対する抱負などを語ってもらった。

8日は、上海観光（上海博物館・豫園・外灘など）を楽しみ、9日は、蘇州観光（玄妙観・西園・虎丘など）を終えて、高速道路を通り、南京大学に到着した。午後6時から、海外教育学院が、我々の歓迎会を開いて下さり、遂に南京大学における二週間の中国語研修の貴重な生活が始まった。10日、午後には、海外教育学院が本学の学生のために、入学式と茶話会を開き、南京大学の紹介と中国語授業の進め方などを詳しく話して下さった。11日、本日から、いよいよ中国語研修が始まる。中国語既習者10名は、初級コースのA班で、中国語未習者8名は、入門コースのB班で、勉強をす



北京・万里の長城にて

ることになる。各クラスでは、二名の先生が指導して下さる。全員が、毎日懸命に中国語を学べば、きっと上達すると思う。20日、午後からは、海外教育学院が、我々のために、マイクロバスを手配し、南京市内観光へ案内して下さった。中華門・瞻園・夫子廟などを見学した。これらの名所旧跡を回るだけでも、南京の歴史の重みと風情の奥深さがひしひしと感じられた。24日、この日で中国語研修はすべて終了する。午前中には、お二人の先生と一緒に、中国語の試験を実施された。夕方の修了式及び歓送会には、海外教育学院の幹部と中国語担当の先生方も全員出席して下さった。学生たちは一人ずつ封副主任から修了証書を頂き、とても嬉しそうであった。中国語修得の厳しさを実際に体験しながら、最高の語学環境が整った名門の南京大学で勉強した学生たちにとっては、やはり生涯でも忘れがたい宴会になったことであろう。

8月25日、本日から、待望の研修旅行が始まる。南京西駅で、夜行列車に乗り込み、西安に向かう。西安では、有名な秦の始皇帝兵馬俑博物館、碑林博物館、城壁、漢の武帝の墓である茂陵、唐の第3皇帝高宗とその皇后則天武后の合葬墓である乾

陵などの一級の遺跡を見学した。今回の西安における女性のガイドさんは、極めて日本語が巧く、かつ中国の歴史や文化遺産に対する知識もかなり豊富だったので、最高の通訳をして下さった。夜には、西安市内の劇場で、陝西省舞踊団の美しい踊りと音楽を鑑賞した。昼には、市の中心街で、餃子三昧の食事を堪能した。西安を離れて、8月29日の早朝には、遂に北京西駅に到着した。その日は午後から、西太后の別荘である頤和園を見物した。夕食後は近くの劇場で雑技観賞をしたが、さすがに本場での雑技はとても難しい技の連続で、学生たちは大いに感激していた。30日、午前8時半から、マイクロバスで万里の長城へ向かう。この日は、天気にも恵まれ、快晴で空気も爽やかだった。ここは、学生たちが一番感動する場所でもあり、そして中国滞在もいよいよ終わりに近づい

たという深い情感に襲われる場所でもある。夕食は、北京ダックの料理で有名な全聚徳に行き、本場の美味しい北京ダックを思う存分頂いた。31日、この日は、北京の中心部にある広大な故宮博物院を見て回った。9月1日は、短期留学の最終日なので、例年通り、全日自由活動の時間を作ってみた。9月2日、参加者全員が量り知れない収穫を携えて、無事関西空港に帰国できた。

とにかく、全員が計画案通りに素晴らしい研修と旅行を終えたことに対して、運命の神様と研修にご協力頂いた関係者の方々に、深く感謝申し上げたいと思う。来年以降も、本学の多くの学生たちが、積極的に海外研修に参加して、実践的な外国語修得と有意義な異文化体験を是非とも実感するよう心から期待したい。

図書館からのお知らせ

平成16年6月1日より、本学図書館では江別市近郊の方々を対象に、一般開放を行っています。資料の閲覧・複写のサービスに加えて、貸出も可能となりました(図書のみ)。

初めての利用の際に、カウンターで所定の用紙に必要事項を記入し、身分証明書等を提示していただくと、利用証を発行いたします。図書の貸出し手続きの際には、図書と一緒に利用証を提示してください。

開館時間は土曜・日曜・祝祭日を除く月曜から金曜の午前9時から午後7時までとなっていますが、何らかの事情によって休館や、開館時間が変更となる場合がありますので、事前にお電話にてお問い合わせいただくか、ホームページにてご確認ください。

皆様のご利用をお待ちしております。

開館時間	午前9時～午後7時 (長期休業期間は別途案内)
休館日	土曜・日曜・祝祭日・本学創立記念日(6月10日)・年末年始
貸出冊数・期間	図書のみ5冊まで、2週間

お問い合わせ
 北海道情報大学図書館
 TEL 011-385-3778
 FAX 011-385-4419
<http://www.do-johodai.ac.jp>

4月から始まった映像表現・上原ゼミは今、ゼミ生12名が3つのグループに分かれて、各班ごとに番組作品を作り、道庁・道新・NHK主催の「ふるさとCM大賞」に出品する作品制作に大忙がしです。



これは、4年次に自身の卒業制作を創るため、3年次にグループで番組制作(映像表現)過程を覚えるためです。

9月上旬、先生と西野幌登満別に「自然の展示会」を見に行きました。それは四季の変化を織り交ぜたエゾリスの写真展でした。そのとき、森の案内人の方が蝦夷リスの生態の話をしてくれた中に9月後半に野幌小学校が全校生徒を連れて、1日「森の日」を体験する授業があると聞きました。「これだっ!」と思い、私は早速提案書を書きました。

9月上旬、先生と西野幌登満別に「自然の展示会」を見に行きました。それは四季の変化を織り交ぜたエゾリスの写真展でした。そのとき、森の案内人の方が蝦夷リスの生態の話をしてくれた中に9月後半に野幌小学校が全校生徒を連れて、1日「森の日」を体験する授業があると聞きました。「これだっ!」と思い、私は早速提案書を書きました。

9月29日、「森の日」。朝早く野幌小学校に出かけ、12名のゼミ生全員で取材しました。その結果、10時間ほどのテープが出来上がりました。なんと600分です。これを1ヵ月半かけて1分間に編集し、コメント、音楽、効果音、テロップを入れ、完成品を創るのです。気が遠くなりそうです。そんな中、Bグループ提案の「小さな秋・エゾリス(仮題)」の撮影のため、深夜3時に起き、浦臼町から野幌千古園まで、エゾリスの生態を撮影しに出かけてきました。

Cグループも現在何度も企画会議を行い、素晴らしい作品を創ろうとしています。

3グループとも、今、最も充実して頑張っています。3作品ともテレビで放送される予定なので、情報大出品作品にご期待下さい!!



ゼミ紹介

上原ゼミ

外山ゼミ

情報メディア学科 3年 谷小雪

外山ゼミは「プログラム」がテーマの集団です。先生が扱っている言語は「アセンブラ、C、C++、Java、COBOL、Fortran」で、実に多彩な言語を取り扱っています。のんびんだらりとした自由な気風で、書かれている以外の言語でも、プログラム以外のことでもOKだったりします。

先生を含めてゼミでは「自分なりの答えを探す旅」と位置づけています。どうすれば答えが見つかるのか、その方法を考えることが非常に大切と考えています。そのため、学生と先生の討論(ディスカッション)はとどまるところを知らず、一度研究室に入った学生は2時間置きぐらいにしか出てきません。内容はプログラムから最近の学校について、就職活動、個人の趣味とジャンルはありません。最長で11時間という強者もいます。先生が研究室にさえいればいつでも挑戦することができます。

ゼミでは、ゼミ生が各自プログラムを作成し、研究室で発表して全員で議論します。同じテーマでも中身は全く異なるため、人

の発表を聞くだけでも勉強になります。さらにわからない部分は相手に尋ねます。尋ねられた人は答えなくてはならないため、尋ねられる前に尋ねられそうな部分を自分で答えてしまう。もしくは逆に相手に尋ねるという駆け引きが活発になり、「やられる前にやる」という自主性が生まれています。





囲碁部は、平成13年度に囲碁同好会として設立され、15年度に部へと昇格した、部としては比較的歴史の浅い部です。「楽しく打つ」というのが部のモットーです。

活動は週1~2回ですが、集まる機会が少ないだけに部員みんなが意欲的に参加しており、対局後の検討などで熱中して帰りが遅くなることもよく

あります。

定期活動以外でも、蒼天祭で囲碁交流会を開き一般の方々との交流を深めたり、学内囲碁大会で段を持つ教職員からの指導を乞うなど、部員の実力を高めるためいろいろな企画を行っています。その実力が試される春秋の大学囲碁選手権では、北海道大会準優勝などの好成績を収めており、全国大会への出場を目標にがんばっています。

囲碁の素晴らしいところは知的ゲーム性だけではなく、囲碁を打っていると自然と礼儀、忍耐力、フェアプレーの精神などが身に付き、将来的に得るものがとても多いというところにあります。これらのことは、実社会に出る上でも重要なことであり、楽しみながら身に付けるという意味では囲碁は最適のものではないかと思えます。

現在総部員数15名のうち4年生が5人、3年生が3人と次期への後継の育成が課題ですが、「楽しく打つ」ということを忘れずにこれからも続けていきたいと思えます。

部長 工藤慎吾

囲碁部 クラブ

部長 横井康大

テニス部 紹介

現在テニス部は男子40人、女子15人の計55人程で活動しています。部活の雰囲気はとても明るく、先輩後輩関係なく仲がよいのが自慢です。具体的な活動として北海道学生テニス連盟に加盟し目標にしている大会としては、4~5月の北海道学生テニストーナメント大会（インカレ北海道予選）、6月頃の全日本大学対抗テニス王座決定試合北海道地区予選（現在6部）、8月の北海道学生テニス選手権大会、9月の北海道学生テニス新進選を目標に活動しています。他にも江別テニス協会に加盟し、江別市民大会等にも出場しています。良い結果はまだ残せてはいませんが、それぞれの選手がベストの自分の力を発揮し活躍しています。しかし、学連加盟は一昨年からとまだまだ経験も浅く、発展途上のチームなので今

後の目標としては、各大会の予選突破及び王座5部昇格を目標に活動していきたいと思っています。ぜひ応援よろしくお願いします。



特集

蒼天祭



十月二、三日の両日にわたり、北海道情報大学蒼天祭が行われました。本学学生も参加するよさこいソーランの競演をはじめ、展示や模擬店など、工夫を凝らした出展に、近所の方々も大勢集まってくれました。

学生部長 坂上 修二

第16回大学祭である蒼天祭が10月2日と3日にかけて行われました。初日はやや肌寒い感じがありましたが、翌日は日も差し、ますますの日和でした。

蒼天祭は回を重ねて早16回目となり、少しずつ変化を遂げているのではないのでしょうか。大学祭実行委員の数も36名と充実しており、その実行委員の努力により、近隣の小学校(複数)や札幌養護学校、札幌盲学校の生徒さんの作品展示や、「よさこい」の演舞を通しての他大学学生や小学生の参加、またそれを見に集まる近所の方々の参加などがあって、次第に近隣の住民との交流が増えつつあるように思います。

また、今回大学祭のイベントの一つとして初めて(社)北海道交通安全推進委員会によりドライビング・シミュレータとシートベルト・コンビンサーが持ち込まれ、かなりの人が運転技量のチェックを受け、シートベルトの効果に驚きながら楽しんでいました。

今回の蒼天祭で印象的だったことは、あるゼミ展示室のパソコン8台全部が子供達に占領され、大変楽しい雰囲気になっていたことです(写真左下)。何か面白いものがあったようで、ゼミの先生も予想ができなかったようです。また202教室で開催されたゲーム大会も子供たちの人気を集め、大画面でマリオの自動車レースに興ずるなど、今回は子供たちの姿が多かったようです。将来、この子供たちが本学に来てくれることを祈ります。

蒼天祭には木村篤詩同窓会会長(第1期卒業生)さん方も見に来られ、賑やかになったと感想を述べておられました。大学祭実行委員の皆さんの努力が実っているのだと思います。実行委員の皆さん、ほんとうにご苦労さまでした。



実行委員長 中村 達也

今年の蒼天祭は、各学科が全学年そろった初めての年であり、昨年行われた節目となる第15回蒼天祭を、より良く発展させようと委員会全体で努力して来ました。メインステージ・模擬店・ゲーム大会・アミューズメント・ゼミ発表・趣味の部屋などを企画・運営しました。問題が生じた面もありましたが、うまく助け合い乗り切ることが出来たと思います。

今年の蒼天祭は、準備不足でご迷惑をおかけした面や初日が大学のオープンキャンパスとかさなり、準備の段階から不安な気持ちを抱えていたのですが、無事に終わることが出来たと思います。その結果、来ていただいた方々には、第16回蒼天祭を楽しんでいただけたと思います。



企画部長 小熊 奈都季

私は今年度、蒼天祭実行委員会企画部長として、様々な仕事をしました。その中でも、一番重かった仕事が、今回の蒼天祭の注目イベントともなった、ガガガSPライブの準備です。振り返れば、本当に長い道のりでした。電話での業者との打ち合わせや、必要物品の確保など、様々な仕事が波のように打ち寄せてきました。1週間前ともなると、もはや時間との勝負となっていました。突然の予想外の出来事が多々あり、本当に間に合うか不安でした。何とか乗り切り、いざ本番を迎えることが出来ました。最終的には、お客さん、そして、ガガガSPのメンバーも楽しんでもらえることができ、本当によかったと思います。今回の体験をこの先の人生にも役立てたいと思います。

メインステージ担当 菊地 貴之

去年は先輩の補佐として関ったメインステージ企画、今年はステージ部長としてその全てを任されることになり、当日の起こるであろう様々なハプニングに対処できるか不安でした。そして、その不安は当日、的中しました。次から次に予想していなかったことが起こり、その対処におわれました。ピンゴ大会が予定時間より大幅に長くなってしまったり、カラオケの参加希望者が極端に少なかったりしました。しかし、MCをお願いした佐藤聖二さんらや、音響をいただいたサウンドクルーの皆さんのご協力とアドバイスにより、1つ1つ対処することが出来ました。今年経験したことを糧に来年も頑張ります。



広報担当 谷尻 ちひろ

今年の蒼天祭で、私は広報部に所属しており、主な仕事は、皆さんが目にするポスターやパンフレット、その他に構内の飾り付けや、蒼天祭掲示板前にあった大きな看板などの作成をしました。今回の作成物のほとんどは、実行委員全体で作りに上げた物です。当日は模擬店などのマップ用看板ともなり、皆さんのお役に立てたのではないかと思います。今年の広報部は、一年生が主となって活動していたので、分からないことばかりで至らない点が多々あったと思います。先輩たちにも、広報活動に限らず色々なことを教えていただきました。その経験を来年に活かして、より良い蒼天祭を皆さんにお届けできればと思います。



模擬店担当 木村 康孝

今年の蒼天祭では14組の模擬店が出店しました。117人の学生が出店者として参加し、お好み焼きや焼きそば、焼き鳥などお祭りには欠かせないものから、自家製のイモを使ったものやスープなど色々なものを出して大学祭を盛り上げました。当日は人の入りもよく、評判はよかったです。また、絵や工作などを募集した「趣味の部屋」には、本学の教員の方や近隣の小学校に通う小学生から作品が寄せられ、たくさんの絵や自由研究が展示されました。ゼミや部の展示では、日ごろの研究や活動の成果の展示が行われ、両方共に、来場者から好評でした。

今後も模擬店や展示を通してたくさんの人が大学祭に参加し、より大学祭を盛り上げていくことが出来るようにしていければと思います。



アミューズメント担当 高橋 美波

アミューズメント企画は型抜き、スマートボール、昔の遊びコーナー、卓球、ストラックアウト、輪投げ、的当てによって構成されていました。ほかの企画の場所と離れているにもかかわらず、お客さんがきてくれて、子供から大人の方まで楽しんでいただけたようです。しかし、入口部分の装飾が足りず、案内に欠けていたので来年はそこを強化していきたいと思っています。

ゲーム大会企画では、去年の大乱闘スマッシュブラザーズに続き、今年はマリオカートダブルダッシュを行い、たくさんの子供に人気がありました。スペシャルトーナメントも行い、最後にミスター※という人物を登場させ、大盛況でした。

蒼天祭

開催

2004/10/2→3

おさこいダンサー集結

カラオケ大会
フードバトル

ゲーム大会
芸能人ライブ

模擬店・出店

焼き鳥 豚串 焼きそば
フランク デパート印刷

アミューズメントパーク
マリオカートダブルダッシュ

通信教育部 平成17年度カリキュラム改正のお知らせ

通信教育部では、平成17年度にカリキュラムが改正となります。現代における社会人教育・生涯学習ニーズの高まりを踏まえ、新カリキュラムでは、入学者個々の学習目的やスキルに応じた学習が可能となるように、5つの履修モデルコースを設定するとともに、科目を大きく教養教育科目と専門教育科目に分類し、専門教育科目はさらに、基礎・応用・発展に分類されます。科目名称も現

代的課題を表示したものにほぼ変更され、い

くつかの新規科目も追加されています。また、科目の必修・選択の区分ならびに科目分類ごとの必要単位数を設定せず、全開講科目から124単位を修得することが卒業要件となります。



平成17年度に設定される履修モデルコース

◆主に経営ネットワーク関連科目を学ぶモデルコース

「経営管理システムスペシャリスト」モデルコース	企業経営や企業会計に必要な知識を習得し、企業情報システムのスペシャリストを目指す。
「e-ビジネススペシャリスト」モデルコース	電子商取引に代表されるインターネットビジネスに関する知識を学習するとともに情報セキュリティに関する法制度についての理解を深め、e-ビジネスのスペシャリストを目指す。

◆主に情報関連科目を学ぶモデルコース

「情報技術基礎」モデルコース	情報の基本から学びたい者を対象に、生活の中の様々なコンピュータとのつきあいを通してその基礎知識と技術を習得する。
「情報テクニカルスペシャリスト」モデルコース	ネットワークの基礎理論から応用技術に至る先端技術と、データベースの構築、運用管理技術を習得し、それぞれのスペシャリストを目指す。
「情報システム開発スペシャリスト」モデルコース	情報システムの設計、開発に関する技術体系を習得し、システムエンジニアをはじめとした情報処理のスペシャリストを目指す。

通信教育部 平成17年度授業科目一覧表

現行科目名 (参考)	授業科目	単位数		備考
		経営ネットワーク学	システム情報学科	
文学Ⅰ	日本近現代小説入門	2	2	
文学Ⅱ	日本現代小説を読む	2	2	
心理学Ⅰ	心理学(基礎)	2	2	
心理学Ⅱ	心理学(発展)	2	2	
歴史Ⅰ	なぜ、いま、フランス革命か	2	2	
歴史Ⅱ	ヴァンデ戦争とは何か	2	2	
哲学Ⅰ	哲学のはじまり	2	2	
哲学Ⅱ	哲学の歩み	2	2	
物理学Ⅰ	運動の物理	2	2	
物理学Ⅱ	物質の物理	2	2	
生物学Ⅰ	生命科学の基礎	2	2	
生物学Ⅱ	生命科学	2	2	
健康科学	健康科学	1	1	
健康とスポーツ	健康とスポーツ	1	1	
海外事情	海外事情	2	2	

現行科目名 (参考)	授 業 科 目		単 位 数		備 考
			経営ネット ワーク 学	システム 情報学科	
英語Ⅰ	教養教育科目 外国語科目	英語Ⅰ (初級英語読解)	2	2	
英語Ⅱ		英語Ⅱ (初級英会話)	2	2	
英語Ⅲ		英語Ⅲ (中級英語読解)	2	2	
英語Ⅳ		英語Ⅳ (中級英会話)	2	2	
英語Ⅴ		英語Ⅴ (実用英語)	2	2	
英語Ⅵ		英語Ⅵ (ビジネス英語)	2	2	
英語Ⅶ		英語Ⅶ (ディベート)	2	2	
独語		初級ドイツ語	2	2	
中国語		初級中国語	2	2	
確率統計学Ⅰ※		※「確率統計学Ⅰ」・「確率統計学Ⅱ」と「オペレーションズリサーチⅠ」・「オペレーションズリサーチⅡ」は、			
確率統計学Ⅱ※	新カリキュラムにおいて「マネジメント・サイエンス」と「定量分析とその応用」の2科目に統合。				

現行科目名 (参考)	授 業 科 目		単 位 数		備 考
			経営ネット ワーク 学	システム 情報学科	
経済学Ⅰ	経営学系専門教育科目	経済学の基礎知識Ⅰ	2	2	
経済学Ⅱ		経済学の基礎知識Ⅱ	2	2	
法学Ⅰ		法学Ⅰ	2	2	
法学Ⅱ		法学Ⅱ	2	2	
政治学Ⅰ		政治を理解するための理論と方法	2	2	
政治学Ⅱ		現代日本の政治課題	2	2	
憲法		憲法	2	2	
民法Ⅰ		民法Ⅰ	2	2	
民法Ⅱ		民法Ⅱ	2	2	
商法Ⅰ		商法総則・会社法	2	2	
商法Ⅱ		商行為法・手形法小切手法	2	2	
経営学総論Ⅰ		経営の基礎	2	2	
経営学総論Ⅱ		経営の応用	2	2	
経営史Ⅰ		近代的企業の創業	2	2	
経営史Ⅱ		日本的経営の展開	2	2	
経営管理総論Ⅰ		経営職能と経営計画	2	2	
経営管理総論Ⅱ		経営組織と指揮統制	2	2	
マーケティング論Ⅰ		マーケティング論	2	2	
簿記原理Ⅰ		簿記原理基礎編	2	2	
商学概論Ⅰ		流通システム論	2	2	
経済原論Ⅰ		ミクロ経済学	2	2	
経済原論Ⅱ		マクロ経済学	2	2	
企業論Ⅰ		経営者と投資家	2	2	
企業論Ⅱ		経営者と意思決定	2	2	
経営組織論Ⅰ		経営組織論	2	2	
財務管理論Ⅰ		財務管理資本調達論	2	2	
労務管理論Ⅰ		人的資源管理総論	2	2	
労務管理論Ⅱ		人的資源管理各論	2	2	
品質管理Ⅰ		品質管理の基礎	2	2	
マーケティング論Ⅱ		ブランドマネジメント	2	2	
経営工学Ⅰ		経営工学の基礎	2	2	
オペレーションズリサーチⅠ		マネジメント・サイエンス	2	2	
オペレーションズリサーチⅡ		定量分析とその応用	2	2	
簿記原理Ⅱ	簿記原理応用編	2	2		
会計学原理Ⅰ	財務会計学基礎編	2	2		
管理会計論Ⅰ	基礎管理会計論	2	2		
商学概論Ⅱ	ロジスティクスマネジメント	2	2		

現行科目名 (参考)	授業科目	単位数		備考
		経営ネットワーク学	システム情報学科	
経営組織論Ⅱ	経営戦略論	2	2	
財務管理論Ⅱ	財務管理資本運用論	2	2	
品質管理Ⅱ	品質管理の応用	2	2	
経営工学Ⅱ	経営工学の応用	2	2	
会計学原理Ⅱ	財務会計学応用編	2	2	
原価計算論Ⅰ	実際原価計算論	2	2	
原価計算論Ⅱ	経営原価計算論	2	2	
管理会計論Ⅱ	応用管理会計論	2	2	
経済政策Ⅰ	経済システム	2	2	
経済政策Ⅱ	経済政策	2	2	
地域経済論	地域システム	2	2	
産業心理学Ⅰ	マーケティングの心理学	2	2	
産業心理学Ⅱ	労務管理の心理学	2	2	
(新規科目)	キャッシュフロー会計	2	2	
(新規科目)	e-ビジネス総論	2	2	
(新規科目)	サプライチェーンマネジメント	2	2	
(新規科目)	ベンチャービジネス論	2	2	
(新規科目)	アントレプレナーシップ論	2	2	
(新規科目)	個人情報保護法	2	2	
卒業論文	卒業論文	8	-	
情報リテラシー	情報リテラシー	2	2	
線形代数Ⅰ	行列と連立1次方程式	2	2	
微分積分Ⅰ	微積分入門	2	2	
(新規科目)	初等関数	2	2	
情報科学概論	コンピュータ入門	2	2	
コンピュータⅠ	コンピュータアーキテクチャ	2	2	
コンピュータⅡ	プログラムの仕組み	2	2	
情報処理概論Ⅰ	コンピュータの構成	2	2	
情報処理概論Ⅱ	コンピュータの利用	2	2	
オペレーティングシステムⅠ	オペレーティングシステム基礎論	2	2	
コミュニケーション概論	コミュニケーション概論	2	2	
データベース入門Ⅰ	関係データベースとSQL	2	2	
電子工学概論Ⅰ	電気と電子回路	2	2	
電子工学概論Ⅱ	電子計測と制御	2	2	
線形代数Ⅱ	ベクトル空間と線形写像	2	2	
微分積分Ⅱ	1変数の微積分	2	2	
情報数学Ⅰ	行列の固有値と対角化	2	2	
情報数学Ⅱ	数値計算入門	2	2	
プログラム設計論	プログラム設計	2	2	
プログラミング言語Ⅰ	プログラミング基礎	4	4	
プログラミング言語論	プログラミング言語の仕組み	2	2	
アルゴリズム論	アルゴリズム	2	2	
オペレーティングシステムⅡ	オペレーティングシステム	2	2	
システム設計Ⅱ	情報システムの設計	2	2	
システム設計演習	システム設計演習	2	2	
アプリケーションシステム	インターネットアプリケーション	2	2	
データベース入門Ⅱ	データベース管理システム	2	2	
データ通信概論Ⅰ	データ伝送のしくみ	2	2	
ネットワークシステム論Ⅰ	ネットワーク基礎論	2	2	
知識工学Ⅰ	知識マネジメント入門	2	2	
画像システム論Ⅰ	デジタル画像概論	2	2	
デザイン概論Ⅰ	生活にかかわるデザイン	2	2	

現行科目名 (参考)	授業科目		単位数		備考
			経営ネットワーク学	システム情報学科	
造形基礎Ⅰ	応用	造形の基礎	2	2	卒業要件として124単位以上を修得
音声工学概論Ⅰ		音声情報処理基礎	2	2	
(新規科目)		ヒューマンインターフェイス総論	2	2	
(新規科目)		多変数の微積分	2	2	
(新規科目)		複雑系入門	2	2	
(新規科目)		常微分方程式入門	2	2	
(新規科目)		偏微分方程式入門	2	2	
プログラミング言語Ⅱ		発展	プログラミング応用	4	
ソフトウェア工学Ⅰ	ソフトウェア工学		2	2	
ソフトウェア工学Ⅱ	ソフトウェア開発技術論		2	2	
システム設計Ⅱ	情報システムのモデリング		2	2	
経営情報システム論Ⅰ	経営と情報技術		2	2	
経営情報システム論Ⅱ	意思決定支援と情報技術		2	2	
情報社会論	情報社会論		2	2	
システム監査論	ITマネジメント		2	2	
セキュリティ概論	ネットワークセキュリティ		2	2	
知的所有権論	知的所有権論		2	2	
情報産業論	情報産業論		2	2	
情報職業論	情報職業論		2	2	
データベースシステム論Ⅰ	データベース		2	2	
データベースシステム論Ⅱ	データベース技術		2	2	
データ通信概論Ⅱ	データ通信システム		2	2	
ネットワークシステム論Ⅱ	ネットワークシステム各論		2	2	
知識工学Ⅱ	知識マネジメントの情報技術		2	2	
画像システム論Ⅱ	画像情報処理		2	2	
コンピュータグラフィックスⅠ	CGモデリング		2	2	
コンピュータグラフィックスⅡ	CGレンダリング		2	2	
デザイン概論Ⅱ	企業にかかわるデザイン		2	2	
造形基礎Ⅱ	造形の技法		2	2	
人工知能Ⅰ	人工知能と問題解決		2	2	
人工知能Ⅱ	人工知能と推論		2	2	
音声工学概論Ⅱ	音声情報処理		2	2	
システム工学Ⅰ	システムの構築技法と情報量		2	2	
システム工学Ⅱ	待ち行列理論の応用		2	2	
オブジェクト指向言語Ⅰ	オブジェクト指向言語Ⅰ		2	2	
オブジェクト指向言語Ⅱ	オブジェクト指向言語Ⅱ		2	2	
コンピュータネットワーク	コンピュータネットワーク		2	2	
(新規科目)	Webサイト構築演習		2	2	
(新規科目)	サーバ構築演習		2	2	
(新規科目)	データベース構築演習		2	2	
(新規科目)	コンテンツ制作演習		2	2	
(新規科目)	常微分方程式による現象の解析	2	2		
(新規科目)	複雑系による現象の解析	2	2		
(新規科目)	数値計算	2	2		
(新規科目)	画像処理の数学	2	2		
卒業論文	卒業論文	-	8		

(通信教育部)



◆◆ 8月～11月主要行事 ◆◆

◇法人本部◇

10月18日(月) 日本私立学校振興・共済事業団 実施状況調査
19日(火) 理事会

◇大学院◇

9月25日(土) 大学院入学試験(一次募集)
28日(火) 研究科委員会

◇大 学◇

8月4日(水) 全学教授会
9日(月)～17日(火) 夏期一斉休日
28日(土) 保護者と教員との懇談会
9月6日(月)～8日(水) 前期追試験
8日(水)～10日(金) メディア教育開発センター主催研修会「大学生の基礎学力の維持方策」
10日(金) 経営情報学部教授会
16日(木)～18日(土) 前期再試験
17日(金) 情報メディア学部教授会
19日(日) 南京大学入学式
A O 入学試験(B日程)第1次面談
21日(火) 後期開講
24日(金) 同窓会寄贈時計塔除幕式
全学教授会
25日(土) ふるさと江別塾
第1回 公開講座「デジタル作品作製講座」
26日(日) 大学入試センター試験リスニング試行テスト
10月1日(金) 9月末卒業 学位記授与
2日(土) 第2回 公開講座「デジタル作品作製講座」
2日(土)～3日(日) 第16回 蒼天祭
4日(月) e-アシーナ運用開始
8日(金) 経営情報学部教授会
9日(土) 第3回 公開講座「デジタル作品作製講座」
15日(金) 情報メディア学部教授会
16日(土) 情報メディア学部3年次編入学 試験(1次募集)
第4回 公開講座「デジタル作品作製講座」
23日(土) 第5回 公開講座「デジタル作品作製講座」
24日(日) A O 入学試験第2次面談
29日(金) 全学教授会
30日(土) 第6回 公開講座「デジタル作品作製講座」
30日(土)～31日(日) P C カンファレンス北海道2004

◇通信教育部◇

8月2日(月)～8月25日(水) 夏期スクーリング 本学
2日(月)～8月21日(土) 夏期スクーリング 東京、大阪、福岡
9日(月)～8月21日(土) 夏期スクーリング 名古屋
20日(金) 平成16年度秋期第1回入学者選考
9月3日(金) 平成16年度秋期第2回入学者選考
15日(水) 平成16年度秋期第3回入学者選考
27日(月) 平成16年度秋期第4回入学者選考
10月15日(金) 平成17年度春期第1回入学者選考
29日(金)～10月31日(日) 後期地方スクーリング(1) 全国15か所

◆◆ 広報活動 ◆◆

<北海道情報大学通信教育部説明会；本学独自>

9月；1会場(東京)

<秋期合同入学説明会；私立大学通信教育協会主催>

8月；2会場(東京、札幌)

9月；3会場(大阪、福岡、名古屋)

<進学相談会>

8月；北海道 6会場(帯広、釧路、北見、旭川、札幌、函館)

9月；北海道 9会場(苫小牧、小樽、室蘭、函館、札幌、北見、釧路、旭川、帯広)

青森県 2会場(青森、八戸)

岩手県 1会場(盛岡)

秋田県 1会場(秋田)

<高校内進学ガイダンス>

9月；北海道 3校(旭川浸雲高校、旭川藤女子高校、札幌興栄高校)

10月；北海道 1校(北海道栄高校)

<高校出張授業>

10月22日(金) 釧路西高校

<オープンキャンパス>

9月5日(日)

10月2日(土)

<A O 入試説明会>

8月6日(金)

◆◆ 主な来学者 ◆◆

9月1日(水) 奈良江商業高校

6日(月) 札幌白陵高校

14日(火) 石狩翔陽高校

15日(水) 中華人民共和国 中国航天科技集団公司
(Yangチーフディレクタ 他3名)

10月7日(木) 台湾 南台科技大学(張学長 他5名)

14日(木) 札幌丘珠高校

22日(金) 江別高校

25日(月) 富良野緑峰高校

26日(火) 江別第二中学校

29日(金) 札幌新陽高校

編集後記

江別が風の街と呼ばれていることを知りました。同窓会から寄贈された新しいシンボルの時計塔 名は「Spiral energy」。デザインを担当された瀧澤明侑美さんによれば「風の街 江別」と「情報というエネルギー」の交差がイメージということです。そういえば今春設置された先輩格のサイン塔も風との関わりがありました。電源の一部が風車による発電です。私学に逆風が吹いている中、2つのシンボル塔が本学にいい江別の風を引き入れてくれることを願いたいものです。(風)